

第10回 トレーナースキルアップセミナー

● 開催報告 ●

開催情報

テーマ：テキスト<1章 安全の基本>に関する学習会

日時：2020年10月23日（金）

Web セミナー 13:00～15:00

会場：Teams での Web 開催

参加者：15名

内訳 トレーナー 12名

シニアトレーナー 3名

安全教育専門委員、事務局

開催主旨

トレーナーを育成する<トレーナー養成講座>で、トレーナーの方々から毎回寄せられるご要望の一つに“深掘”した解説というのがあります。養成講座の時間内では、このご要望にお応えする事ができないため、SEAJ では<トレーナースキルアップセミナー>を SEAJ 安全教育トレーナー対象に、年1回開催しています。

しかしながら、今回コロナ禍において対面セミナー開催を断念し、Web 開催での実施となりました。

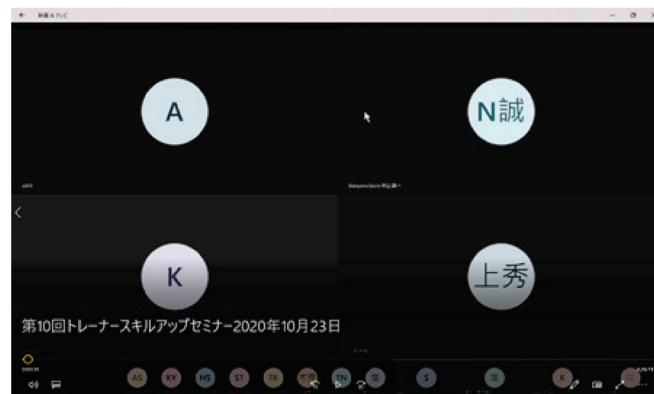
SEAJ 推奨安全教育は基本の全18章とガスの安全教育と作業リーダー教育で構成されており、トレーナースキルアップセミナーでは、毎年いずれかの章に着目し開催しています。

第10回となる今年はコロナの影響で開催自体が危ぶまれる中検討した結果、このような時期だからこそ原点に立ち返り、<1章 安全の基本>をテーマといたしました。

1. プログラム

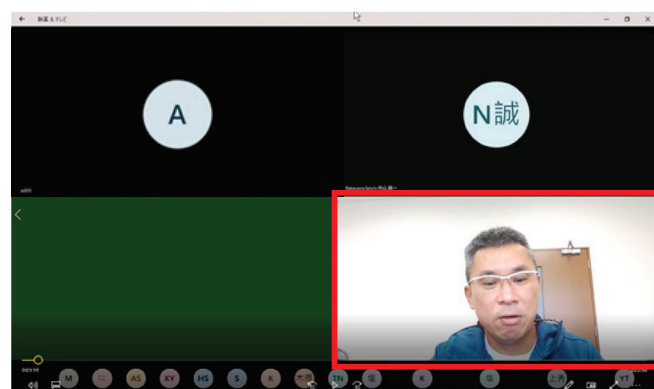
- | | |
|-----------------------|-------------|
| i) 開催の辞 | : 山本副委員長 |
| ii) セミナーの概略説明 | : 塩出委員 |
| iii) プリタスクプランニング | : 佐藤委員 |
| iv) ハインリッヒの法則 | : 中山委員 |
| v) 5Sに関して | : 西澤委員 |
| vi) 陽明学とは | : 塩出委員 |
| vii) 半導体各社のコロナ対策を考える | : 中山委員 |
| viii) Web 更新講習での工夫を紹介 | : 塩出委員・西澤委員 |
| ix) 閉会の辞 | : 佐藤委員 |

初めての Web 開催となりました。



2. トレーナースキルアップセミナー開催の辞

山本副委員長により開催の挨拶がありました。



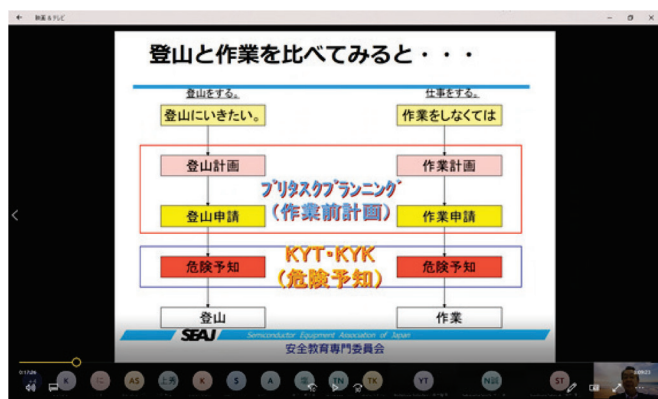
3. セミナーの概略説明

塩出委員（トレーナースキルアップ分科会リーダー）より、セミナーのプログラムと目的の説明がありました。



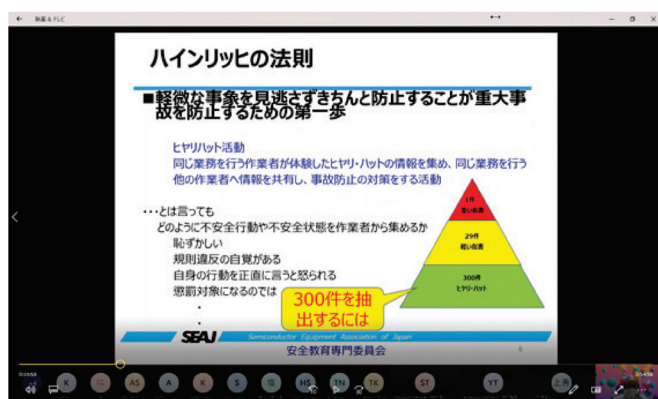
4. プリタスクプランニング

佐藤委員より作業前計画（プリタスクプランニング）を登山計画に例えて説明がありました。



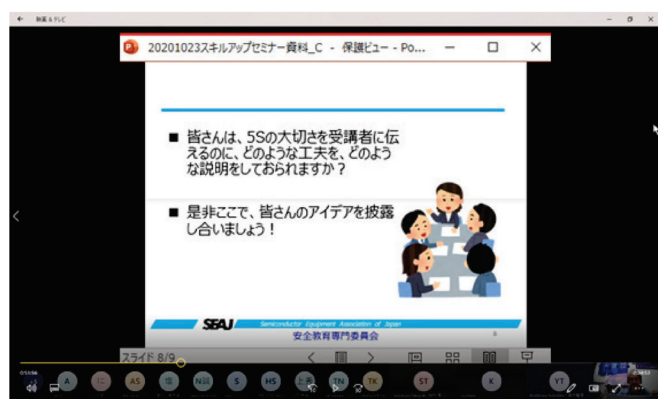
5. ハインリッヒの法則

中山委員より事故事例を交えたハインリッヒの法則の説明がありました。



6. 5Sについて

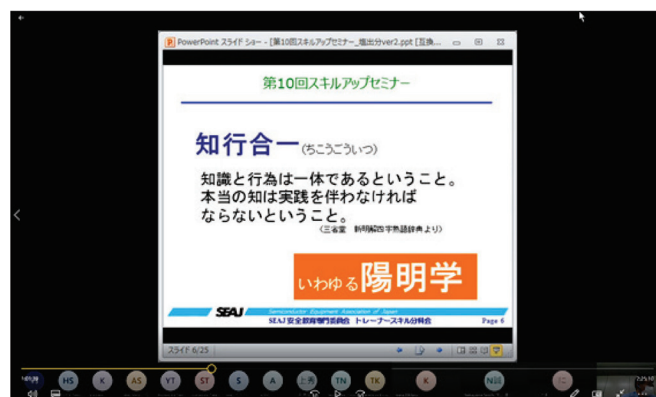
西澤委員よりトレーナーとして大切な取り組みを含めて、5Sの大切さについて説明がありました。



7. 陽明学について

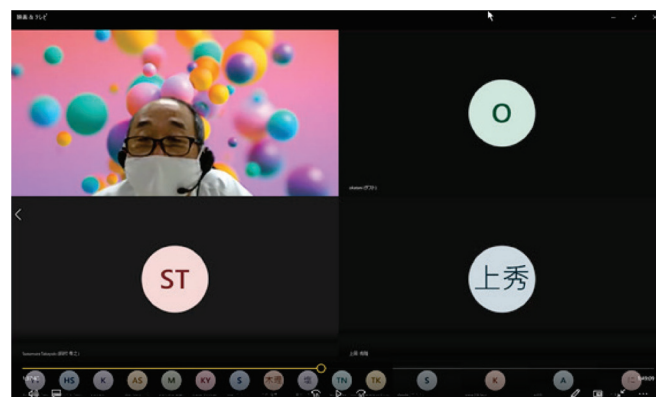
塩出委員より「安全とは行動と実践が伴っていないと達

成できない」と言う事をベースに、陽明学と共有する考えを説明されました。



8. 半導体各社のコロナ対策を考える

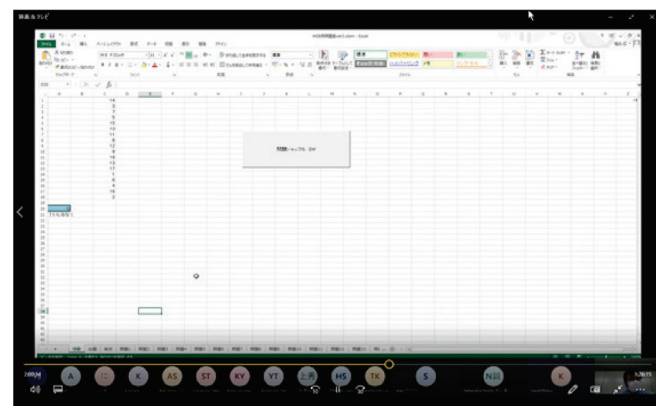
中山委員の司会で、各社でのコロナ対策について、意見交換を行いました。



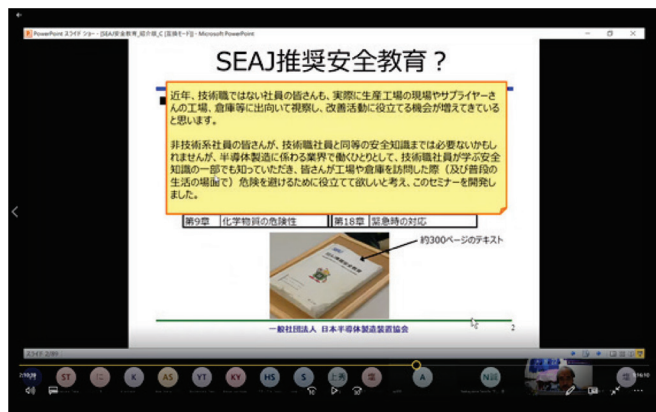
出社率、通勤手段、食堂などでの対面禁止、海外（米国）では州ごとに規制が異なる場合がある。等の情報を得ることができました。

9. Web 更新講習での工夫を紹介

紹介例 1 エクセルを工夫して1～18章の確認問題をランダムに出題できるようにしている。

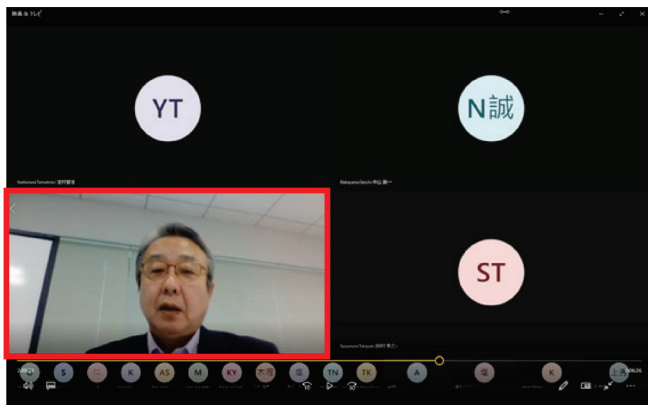


紹介例2 テキストのスライドだけでなく、講師が口頭で説明する内容もポップアップで、表示するようにしている。



10. 閉会の辞

佐藤委員より閉会の挨拶がありました。



セミナーを終えて

今回で10回目となる本セミナーは、テーマを「1章 安全の基本」と致しました。

またコロナ禍で、今までの対面講習の開催が難しい状況において、初めてのWeb開催となりました。Web開催に不慣れな点もあり、ミュートのままで音声が出ていなかったり、資料の表示が出来なかったりとスムーズに出来なかった点もありましたが、大きな問題はなかったと思います。不慣れな点は、経験を積むことによって改善させていきたいと思います。使用するツールによっても表現方法が変わってくるのではないのでしょうか？

今後、このようなWebでの講習機会が増えていくと思われますので、トレーナーそれぞれは、情報共有を密にして、受講者への有効的な表現や多様な変化を持たせた講習にしていけるべきではないかと思います。

セミナーが終了した後の反省会でも多くの前向きな意見

をいただきました。

そのような、皆さまからのご意見を、今後の講習の質を向上させることに繋げていきたいと考えます。

今後もトレーナー養成講座では伝えられない、専門家の講義や講習会の他、トレーナー同士のコミュニケーションの場としてセミナーを開催しますので、多くの方の参加をよろしくお願いいたします。

アンケートより抜粋

今回参加いただいたトレーナーの皆様から寄せられたアンケート結果を、いくつかご紹介させていただきます。

- 安全に対する受講者への伝え方の工夫は講師により、工夫されている事が解りました。
- トレーナー認定取得を取得直後で更新教育未実施の私にとっては、レベルが高い教育であったが、ベテラン講師の方々の説明の仕方等、参考にしたいと感じた。
- 参加者の名簿がなかったので、PC上の表示のどれが、どこの誰なのか、またシニア、マスター、あるいはゲストなのか不明だった。パワーポイントを見せるための準備に時間が掛かっていたが、どういう具合で掛かっていたのか、待ち時間の原因が知りたい。
- 基本マニュアルは尊重しつつも、教育受講する方へ解り易い表現での講師アレンジは必要だと感じた。
- 頭の中で分かっている、実際に説明する事の難しさを感じられた。
- 次にオンラインで講習をする際には、各自のマイク、カメラの接続状態を、始まる前に確認した方が良く、わかったこと。
- 身近な事故・労災の事例から、絶対にする事、してはいけない事を明確に展開したい。
- ハインリッヒの法則は、実際に事例を紹介しての説明は分かりやすい（聞く側にも興味を持たせる）
- プリタスクプランニングで、登山計画を事例にするのは、理解しやすいと思いました。
- “やらされ感がある”、“面倒だ”のような意識を無くし、教育を通じ、ルール順守出来ている職場の姿を、会社の風土として定着させられる様取り組んで行きます。
- 第1章がすべての基本であるという事を再認識し、今回紹介いただいた講義内容を今後の講義の参考にしたい。
- 説明するときは、できるだけ事例、しくみの説明をしようと思っています。
- 筋骨格系障害 MSD についての教育スキルアップセミナー（労災認定や労働環境について課題が多い為。）
- 高所作業はどうあるべきか？（いつまで可搬式作業台が使えるか？ハーネスの使える高さは？等）

- WEBでの開催しかできませんが、皆さんとのコミュニケーションが直接とれる日を心待ちにしています。
- 今後の更新教育を通して、今回発表されたベテラントレーナーの方々のように説明できるようにしたい。
- 薬傷になった時、流水で15分以上となっていますが。15分になった根拠が知りたい。15分未満だったら助からなかったが16分なら助かったみたいな事例を知りたい) 今日得た知識を、教育に使用したい。
- 「正式には、それぞれの薬液によって異なるのでSDSの記載に従った対処が必要ですが、初期のOSHAで許容濃度（が危険レベル以下になる）までには流水で15分以上とされていたため、慣例的に15分以上となっています。」

(分科会編集部記)

シニアトレーナーの感想

また、同じく今回参加してくれたシニアトレーナーからも以下の感想が届いているので、一部抜粋して紹介させていただきます。

【富田シニアトレーナーの感想－抜粋－】

セミナーについては、所々資料の共有でつまづくことはありましたがファシリテーターの方や各委員の方の柔軟な対応で対処できていたと思います。

リモートで実施するうえでのネックですが、受講者の状態がわかりづらいため参加意識をどう高めるかが難しいですね。どうしても開催者側からの一方通行になりがちでしょう。

今回は受講者が少なかったこともあり各受講者の誘い込みもできていましたが今後参加者が増えてきた時にどう誘い込むかはテクニックも含めて検討の余地があるように思いました。まだ始めたばかりですし、今後はおそらくこのスタイルが主流になると思いますので、いろいろと試行とトライを繰り返して作り上げていただきたいと思います。お疲れさまでした。

【松田シニアトレーナーの感想－抜粋－】

カリキュラムと資料については良く出来ていると思います。

大きな問題は無かったです、運用で初めのもたつき等が有りましたがこれも回を重ねれば解決されると思いますが、参加しているという実感が少し沸かなかった様にも思います。理由は画面も音声も切っていて聴講している状況で資料も手元になく、今回自宅で参加しましたので緊張感も少なくなりました。

終始画面を見ていましたが9名の方以外は顔も見えず、講師からの問いかけが有っても音声を切っているので回答者の応答が遅くなりこの事も実感がわからない原因の一つではないかと思っています。

音声については参加者全員がマイク付きのヘッドホンを使用し、全ての方が音声をオンするなどの条件を指定した方が良いのではと思います。

(安全教育専門委員会 トレーナースキルアップ分科会
佐藤 博英)